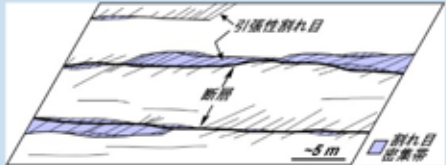
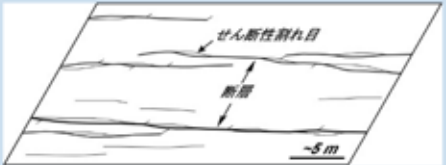
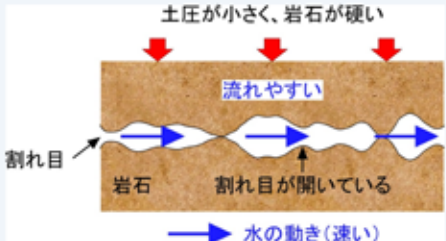
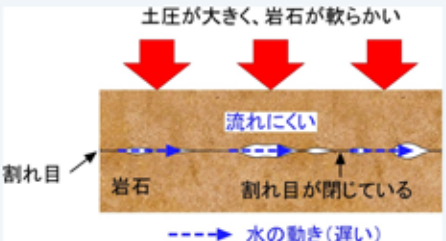


【深度500mと深度350mの地質環境の違い】

深度500mと深度350mを比較すると、深度500mの地質環境は「地下水の流れが遅い」「物質が動きにくい」特徴があります。

そのため、今後様々な特徴を持つ堆積岩でも地層処分技術が対応可能となるように、深度500mでの研究も深度350mでの研究と併せて行っていく必要があります。

	深度350m	深度500m
分布する割れ目の特徴	 <p>断層沿いに多数の割れ目が発達し、断層内を水が流れやすい</p>	 <p>断層沿いに割れ目の発達が乏しく、断層内を水が流れにくい</p>
割れ目の開口状況	 <p>土圧が小さく、岩石が硬い 流れやすい 割れ目が開いており、水が流れやすい</p>	 <p>土圧が大きく、岩石が軟らかい 流れにくい 割れ目が閉じており、水が流れにくい</p>
土圧 地下水圧	<ul style="list-style-type: none"> 土圧が小さく、岩石が硬い 地下水圧が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 土圧が大きく、岩石が軟らかい 地下水圧が高い

<センター職員を紹介します！>

●所属：堆積岩工学技術開発グループ

●氏名：尾崎 裕介

●幌延歴：6年目

●業務内容：地下坑道内での物質移行試験や、非破壊による岩盤の損傷調査研究

●仕事のやりがい：地下でのデータ採取はどこでもできることではないため、研究に必要なデータがきちんと採取できたときに幌延で行っている業務が報われたなと感じます。



●休日の過ごし方：幌延は大自然に囲まれているので、夫婦で動物の写真撮影や、ドライブをしてリフレッシュしています。

●所属：堆積岩安全評価研究グループ

●氏名：佐久間 圭佑

●幌延歴：5年目

●業務内容：坑道掘削後の長期的な地下水湧水量の変化研究

●仕事のやりがい：地下での作業時間は限られているため、作業前に綿密なスケジュールを作成しており、その通りにすべての業務が安全に終了した際に、報われたなと感じます。



●休日の過ごし方：道内各地の温泉を巡ることや、おいしい北海道名産品を食べて気分転換をしています。



センター QRコード

問い合わせ先：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
幌延深地層研究センター：電話・告知端末機：5-2022
ゆめ地創館：電話・告知端末機：5-2772



ゆめ地創館QRコード

広報・調査等交付金事業